

水稻の生育状況と今後の管理対策（第7号）

令和6年7月26日
新潟県農林水産部

〔7月25日現在の県内全域の生育概況〕

- ◎ コシヒカリの葉色は、県全体では指標値（生育のめやす）に比べ、「並」の状況ですが、前回調査時から急激に低下しています。
- ◎ 新之助の葉色は、指標値に比べ「濃い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 7月25日発表の北陸地方1か月予報（7月27日から8月19日）では、平均気温は高く、降水量は平年並か多い、日照時間は平年並の見込み、7月23日発表の北陸地方3か月予報（8月～10月）では、向こう3か月の気温は高いと予報されています。
- ◎ コシヒカリの出穂期は平年より3日程度早まる見込みです。
- ◎ 梅雨明けが遅れており、幼穂形成期の草丈は長い状況です。
- ◎ 今後も高温が見込まれ、穂肥を施用していないほ場では更に葉色低下が進み、栄養不足による品質低下につながる懸念があります。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- ◎ 分施肥系における出穂期10日前的穂肥^{*1}（2回目穂肥）を施用していないほ場では、出穂後の栄養を維持するため、確実に施用してください。
- ◎ 出穂後も高温が予想されています。出穂期6～3日前に葉色を確認し、淡い場合は追加穂肥（3回目穂肥）を検討し、穂が見え始めていても追加穂肥を施用してください。

3回目穂肥の判断基準と施用めやす（化学肥料・分施肥系）

判断基準		穂肥めやす	
判断時期	葉色 (SPAD値)	時期	施肥量 (窒素 kg/10a)
出穂期3日前	31以下	出穂期3日前	1（上限）

- ◎ 全量基肥施肥^{*2}でも葉色を確認し、指標値よりも淡い、急激に低下している場合には、追肥を検討し、出穂期の3日前までに追肥してください。
- ◎ 有機質100%肥料を追肥に利用する場合は、化学肥料よりも早めに施用してください。
- ◎ 出穂期前後は最も水を必要とする時期です。土壌が湿った状態を保つ飽水管理^{*3}を継続し、地温の上昇を抑えてください。溝の状態、水口、水尻への接続を確認し、速やかにかん水・排水ができるように手直しをしましょう。

新 之 助

- ◎ 分施肥系における出穂期 12～10 日前の穂肥（2 回目穂肥）は、適正な出穂期の葉色に誘導するために、葉色に応じて施用してください。
- ◎ 全量基肥施肥のほ場では、葉色が指標値よりも淡い、急激に低下している場合には、追肥を検討してください。
- ◎ いもち病に感染しやすい気象条件が続いています。葉色も濃いことから、ほ場内で葉いもちが発生していないかよく観察し、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。また、出穂期を把握し、適期に穂いもち防除を実施してください。

早 生 品 種

- ◎ 高温に対応するため、田面を乾かすことなく、出穂期 25 日後まで飽水管理を継続して根の活力を維持し、登熟後期まで栄養状態を確保して、高品質を目指しましょう。

害 虫 防 除

- ◎ 斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。斑点米被害を抑えるため、計画的な除草を徹底し、カメムシ類の密度を抑えてください。また、品種ごとに出穂期を確認し、適期を逃さず、確実に防除を実施してください。

*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に行う追肥のこと

*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

熱 中 症 予 防

- ◎ 飲料水を十分に確保しておく、気温の高い時間帯や単独での作業を避ける、のどが渇く前にこまめに水分補給する、頻繁に休憩を取るなど、熱中症対策、健康管理と農作業安全に十分配慮してください。
- ◎ 特に、「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高いので、いつも以上に積極的に熱中症の予防に努めてください。

フェーン対応について

- ◎ 県からの緊急情報を確認し、最新の気象情報・台風の進路に留意しましょう。地域の配水計画を事前に確認して、対応可能なところから、水管理の準備を進めてください。

〔補足資料〕

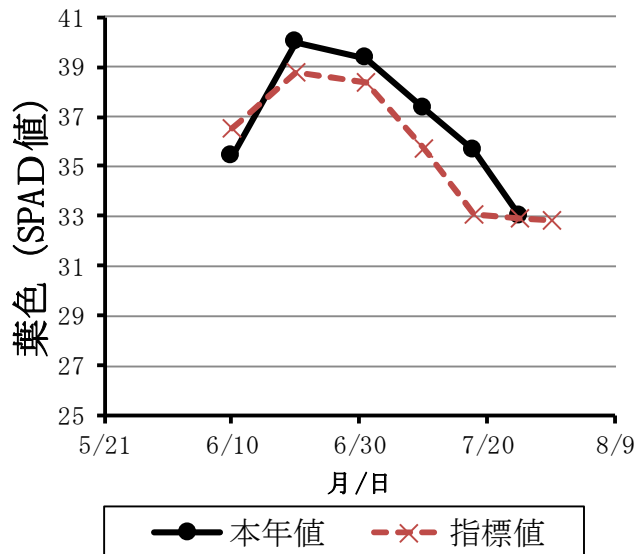
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月25日現在）

コシヒカリ

○ 葉色は指標値（生育のめやす）に比べ「並」の状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	33.0	32.9	並	+0.1

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/m²）



葉色の推移
(県全体)

○ 高温が予想される場合は、外観品質を向上させるため出穂前に緊急追肥が必要な場合があります。下表をめやすに3回目の穂肥施用を検討してください。

3回目穂肥の判断基準と施用めやす（分施体系、登熟期高温予想）

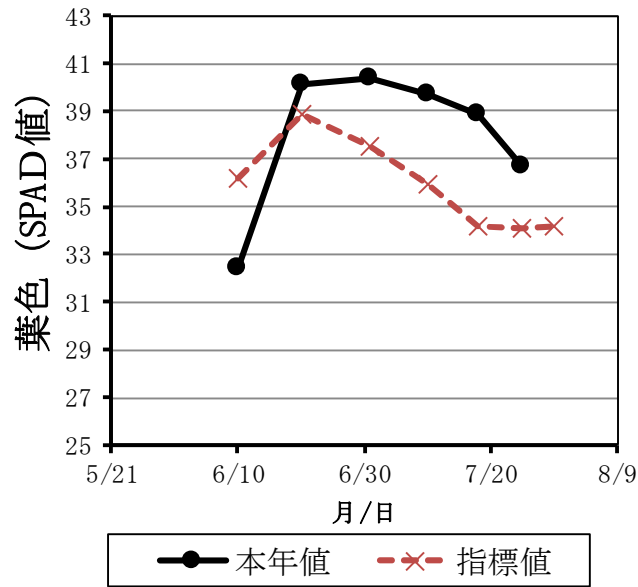
判断基準					穂肥めやす	
施肥体系 基肥+穂肥	追肥の種類	ほ場の 地力	判断時期	葉色 (SPAD 値)	時期	施肥量 (窒素 kg/10a)
化学肥料	化学肥料	—	出穂期 3日前	31以下	出穂期 3日前	1 (上限)
有機質入り 肥料 (減化学肥 料栽培)	有機質入り肥料 有機由来窒素 50%以上	—	出穂期 6日前	33以下	出穂期 3日前	1 (めやす)
		並	出穂期 6日前	33以下	出穂期 6～3日前	1 (めやす)
	有機質肥料 100%	低	幼穂形成期	31未満	出穂期 6～3日前	2 (めやす)

新 之 助

○ 葉色は指標値（生育のめやす）に比べ「濃い」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	36.7	34.1	濃い	+2.6

注) 県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値 (田植え 5 月 18 日、栽植密度 16.6 株/m²)



葉色の推移
(県全体)

○ 登熟期の異常高温や栄養凋落が予想される場合で、出穂期 3 日前の葉色値が 34 未満の場合は追肥を検討してください。

こしいぶき (参考)

○ 葉色は指標値（生育のめやす）に比べ「濃い」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	39.0	35.8	濃い	+3.2

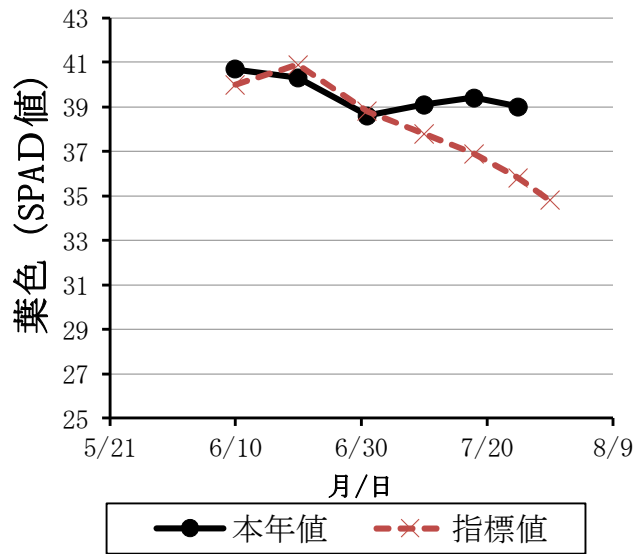
注1) 化学肥料栽培。田植え5月10日、栽植密度18.1株/m²

注2) 基肥窒素成分量3.0kg/10a、穂肥窒素成分量3.0kg/10a

(1.5kg×2回分施：1回目7月5日、2回目7月12日) ※令和5年までは1.0kg×2回分施

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査はデータ

注4) 指標値は作物研究センターにおける直近10年間の平均値



葉色の推移

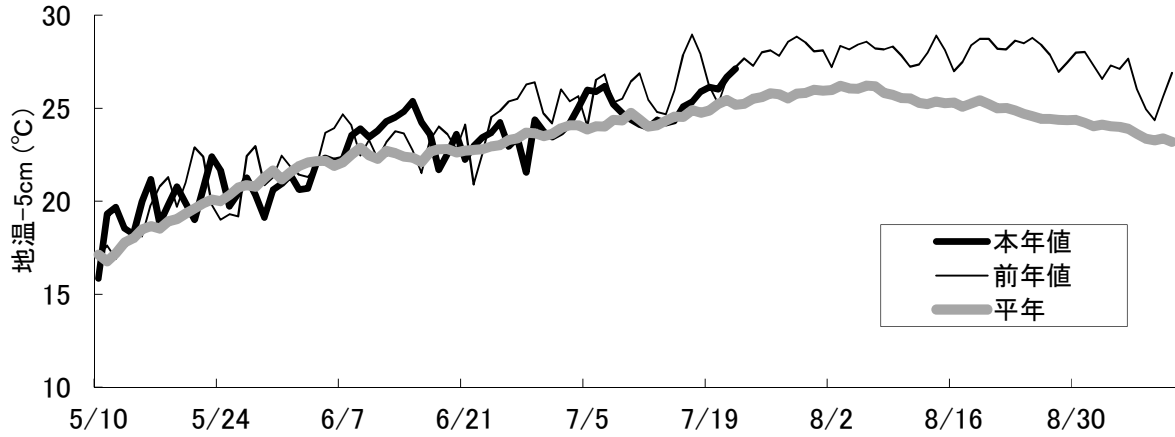
○ こしいぶきの幼穂形成期

	本年値	前年差	平年差
幼穂形成期	7月6日	±0日	±0日
出穂期	7月27日見込み	±0日	±0日

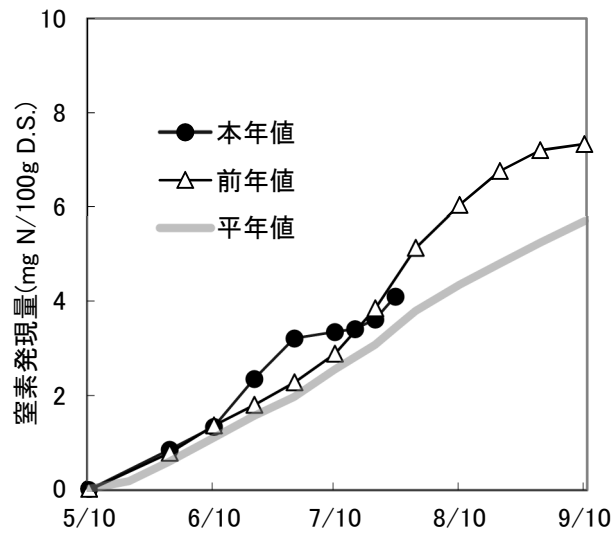
○ 出穂期は平年並の7月27日の見込みです。

3 ちりょく 地力窒素の発現状況

○ 7/16～7/22 の期間の日平均地温は平年差+0.9℃で平年並みに推移しました。この期間までの地力窒素発現量は平年よりやや多いと考えられます。



水田地温（5 cm 深）の推移
 (農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移(7月23日)
 (農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
 初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a